

手足口病・咽頭結膜熱（プール熱）・ヘルパンギーナといった感染症は、夏になると毎年のように流行するため、「三大夏風邪」とも言われます。小さい子どもたちが集団生活をする保育園では特に注意が必要です。夏風邪の予防と早期対応ができ、子ども達が元気に過ごせる環境を整えるために、基本的な知識を一緒に学んでいきましょう。

手足口病

- ◎5歳以下の乳幼児に多くみられますが、大人でも感染することがあるため保護者も注意が必要です。手のひら、足の裏などに水疱性の発疹、口の中の口内炎が特徴です。水疱は、通常3-7日で消失します。発熱は1/3の子どもにみられますが、多くは38.0℃以下で1~3日で解熱します。
- ◎潜伏期間 3~6日



治療はワクチンや特効薬がなく、対症療法が中心です。発熱時は元気がないようであれば解熱剤を使用します。口内炎はしみることがあるので、食事は柔らかくしたり、薄味にしたりします。

ヘルパンギーナ

- ◎コクサッキーウイルスなどの感染が原因で発症する病気で、1~4歳ごろまでがかかりやすいといわれています。突然の38.0℃~40.0℃の高熱、のどが赤く腫れ、口の奥のほうに多発する1~5ミリの水疱ができ、その水疱が破れて痛みを伴います。
- ◎潜伏期間 2~4日



のどの痛みや発熱で飲食がしづらくなります。食べられる時にはのど越しのよいものを準備してあげましょう。脱水にならないように、水分摂取を促しましょう。

咽頭結膜熱（プール熱）

- ◎アデノウイルスが原因となる感染症です。感染すると、高熱やのどの痛み、結膜炎などの症状が見られます。プールの水を介して感染することもあるため、「プール熱」とも言われています。近年ではプールでの集団感染の報告が見られなくなってきたことから、「プール熱」の呼称は適当でないという見解もあります。
- ◎主な症状は発熱、頭痛、咽頭痛、結膜充血（特に下まぶたが赤くなります）、目の痛み、涙目、目やにがあります。発熱と目の症状は3~5日で改善しますが、心臓や肺に基礎疾患のある子どもは重症化する可能性があるため、特に注意が必要です。
- ◎潜伏期間 5~7日
- ◎学校保健安全法の出席停止期間: 主要症状の消退後2日間まで。

・発熱には解熱剤を使用し、のどの痛みに対しては鎮痛剤やうがいで対処します。眼の症状が強い場合は眼科を受診して、点眼薬で治療しましょう。食事は刺激の少ない柔らかいものにします。



【夏風邪対策の基本】 手洗い・うがい

- *アルコール消毒の効果が期待できないため、十分な水と石鹸で物理的に洗い流すことが大切です。
- *症状が改善して2~4週間たっても、ウイルスが便から排出され、感染源になります。オムツ替えの後の手洗いは十分に行いましょう。
- *感染源を持っている人の皮膚や粘膜、感染源が付着した手すりやタオルなどが経路となります。タオルなどは共有しないようにしましょう。

★ますかっと病児保育ルームでは、かかりつけ医が病児保育可能と判断すれば受け入れ可能です。咽頭結膜熱は隔離が必要ですが、いずれもご相談下さい。

利用定員、開設時間等

- 利用定員 6人
- 対象児童 生後6か月から小学校6年生まで
- 利用時間 月曜~金曜日
午前8時00分~午後5時30分まで

お問い合わせ

岡山市北区鹿田町2-5-1 歯学部棟3階
ますかっと病児保育ルーム
TEL 086-235-7301



ホームページはこちら

